

## 青森県の生協活動紹介 ～信用生協・こくみん共済coop～

### 消費者信用生協

消費者信用生活協同組合(信用生協)では、県内にお住いの方を対象として、行政や社会福祉協議会、自立相談支援機関等との連携を取りながら、お金に関わる様々な相談を受け付けています。

(信用生協では、青森県からの委託事業により「生活困窮者自立支援法」に基づき家計改善支援事業の相談も受け付けております)

### 信用生協が取り組む家計改善支援事業の紹介

- 青森市と弘前市と八戸市の3ヶ所に事務所を配置しています。相談料は無料、出張相談にも対応しています。
- 青森事務所、弘前事務所は東、中南、西北、上北、下北の5地域の23町村を、八戸事務所は三戸地域の7町村を担当しています。
- レシート見直しから家計簿作成、収入支出を表で分かりやすく示し、家計の問題、課題を「見える化」します。
- 家計簿を作れない人には専用のシートを活用、相談者と一緒にシートを埋めていきます。
- 他制度(生活保護や生活福祉資金等)の利用や専門家(弁護士、司法書士等)への相談が必要な場合、関係機関への同行支援、情報のとりまとめ等も行っています。

信用生協  
ホームページ



**青森事務所**  
青森市安方1-3-5 小田島ビル3F

**弘前事務所**  
弘前市大字城東4-5-1 ナラオカビル2F

**八戸事務所**  
八戸市大字八日町36 第一ビルディング4F

家計改善支援事業のご相談  
☎ 0120-979-987

### こくみん共済coop(青森県労済)の防災・減災運動

東日本大震災から今年で10年を迎え、震災当時に広がった防災・減災意識や関心が少しずつ希薄になる一方で、自然災害の発生頻度は高まっています。

青森県労済では、東日本大震災復興支援にむけた緑の募金・植樹等に取り組んできました。これだけでなく、未曾有の大災害を風化させないため「東日本大震災から10年の取り組み」を展開し、組合員の命と暮らしを守る安心のセーフティネットづくりを進めています。

### 青森県労済が取り組む防災・減災運動の推進をはかるため、3点の実行課題

1  
継続・強化  
する活動

#### 実行課題 災害時無保障者をなくす取り組み

これまでも無保障をなくす取り組みを展開してきました。大規模災害の発生頻度・危険度を踏まえて、さらに注意喚起を行う必要があることから、この活動を継続・強化します。

2  
節目の活動

#### 実行課題 10年目における防災・減災の普及啓発

東日本大震災から10年のタイミングでは広告媒体等を活用した社会的な取り組みが増加し、生活者意識・関心も高まると想定されます。エリア特性を考慮しつつ、防災・減災の普及啓発を行います。

3  
新たな活動

#### 実行課題 実行課題:防災・減災運動の担い手づくり

将来に向けてこくみん共済coopの社会的役割を果たしていくため、震災10年を契機として、職場・地域の防災・減災力向上に資する活動を新たに展開します。役職員と対象として、防災士養成研修・講座を開催し防災士資格取得をめざします。

青森県のこくみん共済coopの情報はこちらのQRコードへ▼



青森県生協連は様々な活動を県内で広げています。ホームページでは最新の活動報告などをアップロードしていますので、QRコードからぜひご覧ください。

青森県生活協同組合連合会 青森県青森市柳川2-4-22

TEL 017-766-1521 FAX 017-766-3136



# 青森県生協連ニュース

2021.4 春号 No. 65

## ～未来を担う子どもたちを生協はサポートしています～ 「こども宅食 おすそわけ便」に協力し 子育て世代に食品等をお届け

2020年秋、県内での「こども宅食 おすそわけ便」の開始に向けて、青森県社会福祉協議会から青森県生協連に協力の相談があり、青森県民生協とコープあおもりが協力することとなりました。

「こども宅食 おすそわけ便」とは、社会的に孤立しがちな子育て世代に、定期的に食品等を届ける活動です。食品の受取は地域の子育て支援団体による自宅への配達のほか、希望する指定場所を選べるように配慮して活動しています。現在、三沢市、五所川原市、弘前市、青森市で取り組まれています。このように、支援につながりにくい家庭とひたすら「つながり続ける」ことを目指しています。食品等は企業等からの寄付、各家庭にある未開封食品の提供などで集めます。

青森県民生協は、2018年からフードドライブ活動として、偶数月に店舗での食品の持ち寄りを募り、青森県社会福祉協議会を通して生活困窮者の方々へ提供していました。3年間で4,731個、818kgの食品などが集まっています。12月より、家庭からの持ち込みも合わせたフードドライブ活動で集まった食品等を「こども宅食 おすそわけ便」に寄付することとなりました。

コープあおもりでは、共同購入で販売している食品などの在庫分を2ヶ月に1度寄付することとなりました。最初の寄付では、およそ1,000点の食品などを無償提供しました。また、五所川原地域ではコープあおもりの組合員がボランティアとして、食品の配達にも協力しました。

青森県民生協とコープあおもりが協力したことで、企業による協力の輪も広がっています。生協以外にも2つの企業が食品の無償提供を行っています。

本年2月、青森県民生協全店舗で「こども宅食 おすそわけ便」を開催し、のべ333個、約94kgもの食品や掃除用品が集まりました。いっぱいダンボールに積まれて、子どもたちへ届けられました。



2020年11月22日 五所川原市地域福祉センターで青森県社会福祉協議会と、青森県民生協、コープあおもりによる協定調印式が行われ、その後集まった食品を自由に持ち帰ることができる「フードパントリー」体験会も行われ、多くの子ども連れの親子が参加しました



実際に集まった食品や生活用品



フードパントリーには行列ができました!

## コロナ禍での組合員活動 リモートでSDGs学習会を開催

3月13日(土)、青森保健生協法人学びあい委員会主催の「学びのつどい」が開催され、92名の参加がありました。

新型コロナウイルス感染防止の観点から、青森市内5会場へのリモート配信という初の試みとなる方法で行われました。弘前大学の平井太郎氏を講師としてお招きし、保健生協とSDGsのつながりについて講演していただきました。青森県の医療や生活に関係する統計や平井氏本人がフィールドワークで得た知見、青森保健生協の特徴からみたSDGsについて紹介され、SDGsを身近に感じられる講演となりました。支部や職場での学習や実際の取り組みの発表もされ、参考にしようとメモをする参加者の姿が印象的でした。

参加者からは、「県や市、保健生協と関連付けた講演だったのでわかりやすかった」「大腸がん検診は若い方こそ大切なのだと知り、地域訪問の際に心掛けたいと思った」といった声が寄せられました。

今回の「学びのつどい」は、保健生協としてSDGsにどう関わっていくかを考える貴重な場となったのではないかと感じています。初のリモートでの大規模なイベントでしたが、職員・組合員の協力もあり無事開催できました。今後の開催の指標としていきたいと思えます。



普段から組合員活動でお借りしているお寺  
光行寺でのリモート講演の様子



アピオあおもりでのリモート講演の様子

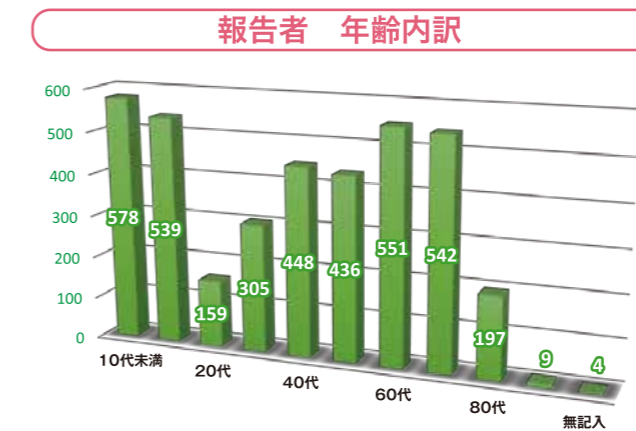
## あおもりまるごと健康チャレンジ コロナ禍での健康づくり

青森県生協連では、青森県民の健康づくりのため「あおもりまるごと健康チャレンジ」を2017年から実施しています。「あおもりまるごと健康チャレンジ」は、運動や食生活、禁煙など、「8つのチャレンジコース」から、自分の生活習慣目標を決め、30日以上連続して取り組むことで生活習慣を改善する、誰でも簡単にできる健康づくりです。医療福祉生協や地域生協を中心に県内の会員生協全体で取り組みをすすめており、県民の健康づくりを広げることで短命県返上に寄与することをめざしています。

年々参加者、結果報告者が増加し、2020年度は参加申し込み者5,000人、結果報告者4,000人を目標に掲げ、青森県民へ普及を進めました。会員生協の組合員だけでなく、71団体もの協力団体への案内を行いました。

最終的に参加申し込み者4,694人、結果報告者3,768人となり、目標には届きませんでしたが過去最高の参加者数となりました。幼稚園、保育園8園、小中学校33校、企業8社も参加し、生協の枠にとられない参加を広げることができました。「少しずつでも続けるきっかけになり、コロナ禍で外出できないストレス解消になりよかった」「親子3代声かけあいながら続け、家族とのコミュニケーションのきっかけにもなった」などの感想も寄せられました。

「あおもりまるごと健康チャレンジ」は、2021年度も6月から開催予定です。参加をご希望の方はお近くの生協、もしくは青森県生協連へご連絡ください。



## 青森県生協連の健康づくり ～コロナ禍のため、企画の開催は困難な1年となりましたが、「計る、知る、変える」の活動を支えるスタッフ養成を重点に取り組みました～



生協健やか隊員を養成

地域の健康度測定を担う「生協健やか隊員研修」を青森市、八戸市、弘前市で開催しました。3年間でおよそ300人の健やか隊員が養成されました。写真は「ステップアップ研修」での体組成測定研修の様子。



組合員企画での健康度測定

コープあおもりこ〜ぶ委員会主催で開催されたつどいでの健康度測定の様子。11名が参加し、体組成測定、立ち上がりテストを行いました。健康度測定は好評で、自身の健康について考えるきっかけづくりにもつながりました。



Webで養成講座を開催

弘前大学の学生を対象に「ヘルスサポーター」の養成講座を開催しました。コロナ対応で、Webでの講習とマンツーマンの測定講習を実施し、20名の学生が「ヘルスサポーター」に任命されました。学生による学生の健康づくり活動に向けた大きな1歩となりました。



健やかショッピングサポート

弘前大学COI、生協、シルタス社との共同研究で、生協のお買い物データから分析された栄養バランス情報をスマホアプリで受け取り、健康度測定を定期的に行うことで自然に健康を意識したお買い物ができる仕組み。モニター募集には弘前大学COI 中路重之拠点長も駆けつけました。